

学校で、世界とつながる

学校にしながらグローバルな経験を。茨城高専ではグローバル化を進めるにあたり、留学生の受け入れや海外研究者の招へい、授業の英語化などを進めています。

今年度も、各国からの短期留学生が滞在したほか、英国の研究者を招いて講演会を実施しました。また、夏季集中講義では筑波大学大学院の留学生をティーチングアシスタント(TA)に、英語による課題解決型授業を行いました。

■ 交流 研究室内外で

フランス・台湾 短期留学生受入れ

6月18日～8月24日、フランス・ルーアン応用科学大学の学生3人が滞在し、ソフトウェア開発の実務研修やTA業務を行いました。

7月2日～8月2日には、台湾・聯合大学の学生1人を物質工学科の研究室に受け入れました。最終日の滞在報告会では、研究の成果とともに台湾の紹介もされ、本校から同大学に派遣される学生も聞き入って現地への思いをはせていました。

■ 日本文化、英語で伝える

タイ留学候補生 サマープログラム

茨城高専では今年の4月から全国の高専に先駆けてタイからの高専1年からの留学生受入を開始しました。8月5日～10日には、タイ・チュラポーン王女サイエンスハイスクール(PCSHs)から、来年4月に日本の高専への留学を志望している生徒たち(24人)に向けたサマープログラムを実施しました。

プログラムでは留学生を受け入れる全国の6高専が協力し、機械・電気・情報・土木建築・化学の各科目について、英語で体験授業を行いました。↑



書道体験の様子=サマープログラムにて

また、本校の学生とともに折り紙や書道を体験する活動も実施され、互いに英語でコミュニケーションを取りながら作業を進めていました。

■ 英語で学ぶ 考える

英オックスフォード大研究員の講演会

5月10日、2年生のグローバル副専攻の授業にて英国オックスフォード大学のWesley Ramm研究員の講演会を開催しました。講演後

の講師との時間では徐々に打ち解け、英語で質問ができるようになりました。

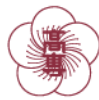


集中講義 グローバル工学基礎

授業のすべてを英語で行う4日間の集中講義「グローバル工学基礎」が今年度も8月28日から開講されました。受講した4・5年生13人は、筑波大学大学院の留学生TAの補助を受けながら「GLOBAL WARMING - Causes, Effects and Sustainable



Solutions」をテーマに英語でディスカッションし、結果をポスターとプレゼンテーションにしました。



学校から、世界へ踏み出す



オペラハウスを背に=オーストラリア

8月から9月にかけては、海外研修が実施されました。参加学生たちのアンケートや報告書からの声を紹介します――。

■ 海外研修 意識が変化

「英語で話すことの楽しさが分かった」というのはカナダ研修に参加した4年生。語学学校にもホームステイ先にも様々な国の人がいて、英語を介して理解し合う喜びを経験できたといいます。

刺激を受け、新たな目標を見つけた人も。カナダ研修に参加した別の学生(4年生)は、「様々な国の人から英語を学びに来た理由などを聞き、自分が英語を学ぶ上での意識も変化した」といい、将来は海外で働きたいと思うようになったそうです。↑



山登りも楽しんだ=カナダ

オーストラリア語学研修に参加した2年生は「もっと英語を話せるようになりたい」と、帰国後に早速英会話教室に通い始めたといいます。

「日本以外の国の文化を知ることができたことで自分の視野が広がった」(オーストラリア研修参加・2年生)と感じた人もいました。

● 夏季休業期間の主な海外派遣

派遣先	期間	人数
中国	9月3日～9月16日	1
台湾	8月10日～9月8日	1
シンガポール	8月18日～9月2日	2
タイ	10月6日～10月14日	2
韓国	9月2日～9月15日	8
フィリピン	8月25日～9月8日	1
カナダ	8月25日～9月9日	15
オーストラリア	8月25日～9月9日	14
計		44

タイ留学生 県庁・市役所を訪問

タイ・チュラポーン王女サイエンスハイスクールからの留学生3名が、8月30日に茨城県の宇野善昌副知事を、9月4日には本間源基ひちなか市長、清水立雄ひちなか市議会議員の下を訪れ、茨城高専での学校生活や日本の印象、将来の夢などについて懇談しました。

